NIE実践報告

1．タイトル：新聞で世界を広げよう　小規模校での新聞活用の実践

2．学校名

石川県輪島市立西保小学校

3．実践者名（代表者名）

小﨑香代子

4．学年

第5・6学年（複式）

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間　5人

6．単元（本時の学習課題）名

「戦争と平和の記事を読んで考えよう」（情報）

7．目標(狙い)

戦争や平和の記事を読んで、知ったことや感じたことを話し合い、平和についての意識を高める。

8．評価の視点

新聞記事を読んで、短く要約したり自分なりの感想や疑問をもつことができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「新聞を知ろう」（2時間）、「興味のある記事を追いかけよう」（2時間）、「能登沖地震とボランティア活動の記事を読もう」（3時間）、「食についての記事を追いかけよう」（3時間）、「戦争と平和の記事を読んで考えよう」（3時間）、「地域の記事を探して読もう」（3時間）、「新聞を比べて読んでみよう」（3時

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①選んだ記事を読んで、内容を要約したり、感想や疑問を書く。
②お互いの発表を聞き合い、感想や疑問を出す。
③出された疑問などについて調べる。　（①~　③で2時間）

（留意点）
・戦争や平和についての記事を前もって収集しておく。
・新聞だけでなく、インターネットや図書、テレビ番組などの活用も支援する。
・国語や社会の学習に結びついていくことを予告する。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

60余年も前の出来事なのに、今でも「戦争や平和」のことを熱心に取り組んでいるたくさんの人々がいることにまず驚いていた。特に、「ねがい」の歌詞が世界中の人によって千番まで作られたことに感動していた。同時に、「どうして今はアメリカと仲良しなのか？」「どうして長崎市長が撃たれたのか？」「世界で戦争しているのはどこだろう？」などの疑問が出されて、調べ学習へと発展した。

12．成果と課題

子どもたちは、以前に比べて新聞を読むようになってきたと言っている。テレビと違ってじっくりと自分のスピードで読めるのがいいと話している。まだ文字に対して抵抗はあるが、5W1Hを見つけて文章化したり自分の感想を伝えることにも慣れてきた。また、友だちの発表を聞き合うなかでの交流も意義があると思われる。新聞という“社会へつながる窓”をのぞいたおかげで、子どもたちの世界が少し広がったことは確かである。